



種高魂

卒業式特別号

令和4年3月2日発行

岩手県立種市高等学校学校通信

3年間の思い出を胸に秘め、本日旅立ちます。

～ 令和3年度 卒業式 挙行される ～

3月1日(火)に令和3年度卒業式が挙行され、卒業生(普通科14名、海洋開発科27名、計41名)は、それぞれの道へ旅立ちました。

平成31年4月に本校生徒となり、3年間、学習や生活・部活動等で下級生の模範となり、私たちに導いてくれました。それぞれの新たな進学・就職先でのご活躍を祈念いたします。

【 式 辞 】

本日ここに、洋野町長 岡本正善様、PTA会長 北山 徹様、同窓会長 日當 博治様のご臨席を賜りますとともに、保護者の皆様のご列席をいただき、令和3年度岩手県立種市高等学校の卒業式を挙行できますことは、誠に喜ばしく深く感謝申し上げます。

ただいま卒業証書を授与いたしました41名の皆さん、卒業おめでとうございます。これまでの皆さんの努力を心から称えたいと思います。また、この日まで長きにわたってお子様を支えてこられた保護者の皆様へ心からお祝いを申し上げます。

本日のこの喜びは、卒業生の皆さんのたゆまぬ努力の結果であることは言うまでもありません。しかし、皆さんのことを絶えず気遣いながら支えてくださった、ご家族や白鷗寮の寮母さん、洋野町をはじめとする関係団体・関係機関の皆様など、多くの方々のご支援の賜であることを、決して忘れてはなりません。

人は「ありがとう」と言った言葉の数だけ賢くなり、「ごめんなさい」の数だけ優しくなり、「さようなら」の数だけ「愛情」を知るものだと思います。

この人生の節目にあたり、お世話になった方々へ素直に感謝の気持ちを伝えてください。皆さんはこれから、社会の急激な変化に直面し、将来の予測が困難と言われている時代を生きていくこととなります。そこで本日は、明日からの人生をしっかりとたくましく生き抜き、幸せな人生を歩んで欲しいとの願いを込めて、二つのことをお話しします。

一つ目は、「誠実に生きてほしい」ということです。人間として最も大切なことは何でしょうか。相手に真心を込めて誠実に接すること。そして、自分に与えられた事に対して、責任を持って精一杯やり遂げようと努力することです。人間は弱いもので、自分を守るためについ逃げたり、誤魔化したりと様々な行動に走りがちです。しかし、このような自分の弱さに負けることなく、毎日を誠実に生きていくことが、知らず知らずのうちに人間の徳、すなわち人格を創り上げていきます。嘘や誤魔化しのない誠実な行動が創り上げた人格や、思いやりのある温かい人柄の持ち主に対して人は信頼します。

二つ目は、「ふるさとを大切にしたい」ということです。自分がどんなに素晴らしい世界にいたのか。ともすると人は見失いがちです。家族がいること、友達がいること、ご飯が食べられること、お風呂が沸いていること、心配してくれる人がいること、帰る家があること。当たり前のことがどんなに尊く、普通のことがどんなに美しいかを人はよく忘れていきます。そしてそれは、ふるさとの姿なのです。

卒業とともにこのふるさとを離れる皆さんも多くいます。グローバル化の中で、人の流れは県都へ、首都へ、海外へと、ふるさととの距離を遠くしています。

しかし皆さん、ふるさとのことを忘れないでください。そして、すぐにとは言いません。少し人生に余裕ができたとき、いつの日か、ふるさとを思い起こし、ふるさとに自分のできることを考える。そんなふるさとを大事にする人であって欲しいと願っています。

結びに、保護者の皆様へお願いがあります。どうかお体に留意して元気でいてください。今、



卒業を迎えた生徒たちをまだまだ頼りなく感じているのではないのでしょうか。しかし、少しずつ独り立ちしていく子どもに親としてできることは少なくなっていくはずですが、何かしてやりたいたくても、ここは本人の力で超えるしかないといった局面も増えてくると思います。これから生徒たちは、大空に翼を広げ羽ばたいていきますが、時として雨に打たれ、風の冷たさに凍えて、しばし羽を休めることもあるかもしれません。そのときに笑顔で迎えられるよう元気でいてください。そして卒業生の皆さん。皆さんは、コロナ禍という苦難を耐え抜き、学び抜きました。その苦労は全て青春の宝です。皆、誇り高く胸を

張ってください。
皆さんの前途が、幸多きことを心から祈念し式辞といたします。

令和4年3月1日

岩手県立種市高等学校 校長 村上 智 芳

卒業生の素晴らしい功績が表彰されました

～ 各種表彰(2/28月、3/1火 実施)受賞者紹介 ～

表彰名	科	氏 名
3 力年皆勤	普通	北山 莉音 小向 綾香 佐々木 優 凧 関 端 あさひ 槻木澤 ちひろ 山 崎 真 朋
	海洋開発	穴津子 空 良 梶 本 怜 那 久 保 恭 介 澤 山 翔 下 学 坪 颯 汰 下 田 拓 也 平 中 悠 斗 高 谷 佳 希 馬 場 斗 一
3 力年精勤	普通	澤 口 琉 称 館 野 愛 菜
	海洋開発	小子内 海 登
(公財)産業教育振興中央会御下賜金記念優秀卒業生	海洋開発	下 田 拓 也
(一社)日本潜水協会会長賞	海洋開発	澤 山 翔
東日本高等学校土木教育研究会会長賞	海洋開発	下 学 坪 颯 汰
岩手県産業教育振興協会会長賞	海洋開発	高 谷 佳 希
全国工業高等学校長協会ジュニアマイスター顕彰制度		
・特別表彰受賞	海洋開発	神 山 遼 澤 山 翔 下 田 拓 也 平 中 悠 斗 高 谷 佳 希 野 田 口 大 瑚 森 海 斗
・ゴールド受賞	海洋開発	穴津子 空 良 神 山 遼 梶 本 怜 那 久 保 恭 介 澤 山 翔 下 学 坪 颯 汰 下 田 拓 也 平 中 悠 斗 高 谷 佳 希 立 花 旭 鳥 居 海 斗 野 田 口 大 瑚 森 海 斗
・シルバー受賞	海洋開発	上 畑 彪 真 小子内 海 登 角 嶋 聖 也 川 戸 美 輝 笹 原 佑 月 佐 藤 嵩 弥 滝 田 太 一 館 石 大 雅 馬 場 斗 一 山 本 怜 奈
危険物取扱者試験表彰		
・甲種取得者	海洋開発	下 田 拓 也 野 田 口 大 瑚
・乙種全類取得者	海洋開発	神 山 遼 澤 山 翔 野 田 口 大 瑚
岩手県高等学校家庭クラブ連盟表彰	普通	槻木澤 ちひろ



[3力年皆勤表彰(3/1)]



[各種表彰式(2/28)]



卒業生へ心温まるご祝辞を賜りました

【 来賓祝辞(要旨) 】

○洋野副長 岡本正善 様



41名の卒業生の皆さん、誠におめでとうございます。3年前、夢と希望に満ち種高に入学し、本日卒業するにあたって3年間の思い出が走馬灯の如くよみがえっていることでしょうか。本日、晴れの日を迎えられたのは保護者や家族、先生方、そして友人の温かい友情があったからこそであることを忘れないでください。新型コロナウイルス感染症により生活が一変し、今までと異なる学校生活だったことでしょうか。そんな中、レスリング部の活躍や町内海岸清掃、高校生魅力化促進事業での町内小中学校との連携、高大連携等皆さんの素晴らしい活躍を拝見させていただきました。

種高の伝統と誇りを胸に秘め、卒業生としての誇りをもって旅立ってください。

○PTA会長 北山 徹 様

卒業おめでとう。皆さんが入学し1年が過ぎたとき新型コロナウイルス感染症拡大により、前例のない高校生活が始まりました。当たり前のことができない高校生活だったことでしょうか。そんな中、資格取得や部活動で上位に挑戦し、合格・進出する姿を見ており、素晴らしいと思っていました。

皆さんが初めてもらったプレゼントは何でしたか？それは「名前」です。あなたの名前を呼ぶ声、誰かがあなたを呼んでいる声が聞こえますか？苦しいとき、悲しいとき、あなたの名前を呼んでくれる人に話しかけてみては？

○同窓会長 日當博治 様



学び舎を巣立つ卒業生の皆さんおめでとう。

11年前には東日本大震災、2年前からは新型コロナウイルス感染症、青少年期に二度も大きな天災を経験した皆さんには強く生き抜いてほしいと思っています。各種大会等の中止に伴い創意工夫した生き方をしてきた君たちには、きっと現状の生き方はプラスになっていくに違いないと確信しています。そんな中、進路決定した不屈の精神を待っている君たちに敬意を表したい。それぞれの道に進むわけだが、自身を信じ、未来を切り拓いていったほしい。そして人生の夢を実現できるかは君次第なのである。同窓生として応援したい。73年の誇りを胸に大きく飛躍してほしい。



在校生送辞、卒業生答辞 紹介

【 送 辞 】

寒さが少しずつ和らぎ、春の足音が聞こえ始めたこの良き日に、卒業を迎えられた皆様、ご卒業、おめでとうございます。在校生一同、心からお祝い申し上げます。

今、先輩方と過ごした日々を思い起こしてみると、学校や生徒会活動、部活動など、様々な場面で私たち1、2年生の目標となるような素晴らしい活動を見せてくださいました。

今年度も新型コロナウイルス感染症の予防により開催を危ぶまれたスポーツフェスでしたが、徹底した消毒や工夫されたアイデアを活かした競技で、学校全体で楽しく参加することができました。種高祭では普段行っている授業の発表や実習などをおし



競技で、学校全体で楽しく参加することができました。種高祭では普段行っている授業の発表や実習などをおし

て改めて普通科と海洋開発科が交流を持つことができ、今までとは違う新しい文化祭を作り上げることができました。

また、生徒総会などの生徒会活動では生徒全員が参加しやすい、新しい方法で行われるなど、言葉だけではなく、行動でも私たちに道を示し導いてくださいました。

部活動では新型コロナウイルス感染症防止対策により、大会の規模が縮小されたり、練習試合を行う機会が少なくなったりと思うように活動できないことが多くありました。そのような状況でも笑顔を忘れずに活動し、技術面、精神面ともに私たちに助けてくださいました。

繰り返し思い返す中で、先輩方が生徒会を引退した後、学校行事や日々の生活をしっかりと過ごすことができたのは、先輩方の助けがあったからこそと実感し感謝しています。

いよいよ卒業生の皆さんは夢と希望を胸に未来へと歩み始めます。そしてその道の途中で学校とは違った様々な困難に出会うこともあると思います。その時には種市高校で学んだことを思い出してください。共に学び、競い合い、助け合った仲間がいること、そして時には私たち後輩のことを思い出していただけに嬉しく思います。種市



高校で培った不撓不屈の精神で未来を切り拓いてください。

私たちはこれまで先輩方が築き上げてきた種市高校の伝統と誇りある輝かしい功績を引き継ぎ、より良いものにするためにさらなる努力を重ねて参ります。

最後になりましたが、それぞれの希望を抱き、羽ばたく先輩方のこれからの未来がますます明るく、健康で輝かしいものとなりますことを、私たち在校生一同、心より願っていることを添えて送辞といたします。

令和4年3月1日

在校生代表 坂下隼斗

【 答 辞 】

柔らかな日差しが心地よく、春の訪れを感じる季節となりました。

本日は多数のご来賓、保護者の皆様にご出席いただき、このような温かな卒業式を挙げて頂きます事を卒業生一同、心よりお礼申し上げます。

振り返れば、種市高校での3年間は瞬く間に過ぎてゆきました。そんな短い3年間も、思い返すと様々なことがありました。入学後、初めての行事であるスポーツ大会ではクラスメートと協力することでクラスがどんどん団結していくのが感じられて嬉しかったことを覚えています。しかし、2年生になると現在も猛威を振るい続けている新型コロナウイルスが世界中に姿を見せ始めました。感染拡大の影響でスポーツ大会や文化祭など行事の開催が危ぶまれましたが、感染対策を考え今までとは違う形態で開催することが出来ました。また、3年間の中での一大行事である修学旅行が中止になってしまいました。3年生になってからも例年通りの行事開催ができず、さらに、多くの部活動が打撃を受け、努力の成果を発表する場を奪われた部活もありました。しかし、私はこの特別な2年間を後悔し恨むのではなく、大切に心のうちに留めておくべきだと思います。そしてこの非日常の2年間を生きた精神力はコロナ禍から抜け出した後、私たちにとって大きな問題に直面した時に思い出し、立ち向かっていくための武器に必ずなると思いますが、このコロナ社会で大切なものを失った人たちが口を揃えて嘆く言葉は、「当たり前で生活できることのありがたさ」です。当たり前のように人と会い、食事をし、人と触れて感情を共有する。そんな当たり前の行為が、当たり前でできる世の中が再び訪れることを、心から願っています。在校生の皆さん、皆さんも仲間とともに、種市高校のこれまでの伝統を引き継ぎ、その上に新しいものを築き上げていってください。私たちは種市高校を離れますが、皆さんの努力が、種市高校をさらなる発展へと導いていくことを信じ見守っています。私たちはこの状況下で、自分で選んだ新たな道を力強く踏みしめ、高い目標をもって邁進することをここに誓います。



最後になりましたが、種市高校がこれからも素晴らしい歴史を刻んで行く事、また本日ご列席いただきました全ての方がこれからも健康でますます輝かれる事をお祈りして、答辞とさせていただきます。

令和4年3月1日

卒業生代表 関 端 あさひ